

# あなたは男ですか、女ですか？ 自信をもって言えますか？

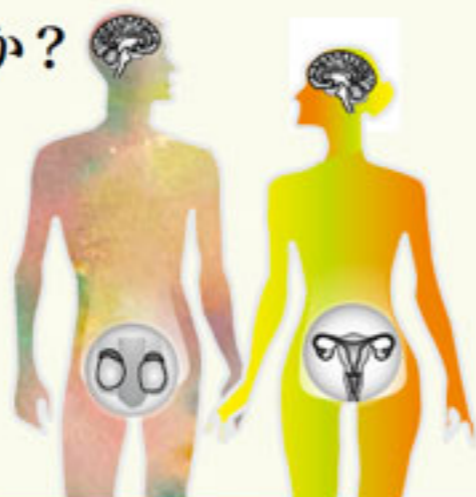
性の自由さと  
頑強さとは？

細胞の性と個体の性とは？

遺伝子で決まる性と  
環境で決まる性とは？

性の進化と退化とは？

脳の性と体の性とは？



性にまつわる様々な疑問や誤解を氷解できる一冊

## 遺伝子から解き明かす 性の不思議な世界

[編著] 田中実

2019年2月発売 本体4,500円 四六判520頁 978-4-909383-06-8

web  
コンテンツ  
付き

様々な生物の持つ性決定システム、性が転換または維持される基盤、現在の性システムができあがった進化の過程を、豊富なビジュアルと丁寧な解説によって、性が持つ自由さと頑強さを理解できる一冊！



ジェンダー論やヒトの性を扱った本が多い中、多くの生物群の中のひとつとしてヒトの性を取り上げて特徴を紹介した一冊

### 本書で得られる知識

**1 生物ごとに異なる性のあり方を理解**  
ほとんどの生物の性を取り上げ、人間社会の過激な議論する性が示す自由さを理解



**2 性を支える分子レベルの基盤を理解**  
性を決定・維持する遺伝子や発現を調節する領域の多様性と精緻さを理解



**3 性決定の仕組みを理解**  
ヒトのように遺伝的要因で決まるタイプから、温度や雌雄の割合で決まる仕組みを理解



**4 性の進化を理解**  
性決定する遺伝子から染色体や生殖腺の機能、仕組みがどのように進化してきたかを理解



**5 性のレベルを理解**  
遺伝子、細胞で決定された性が個体としてどのように現れるのかを理解する



**6 性が支配する行動を理解**  
主にオスがメスに行く求愛行動など、脳の性分化によって決められる行動を理解

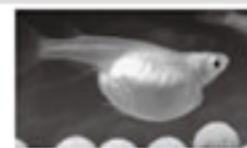


正しい理解のための「性」を生物レベルとして、心も関心の高いLGBTなど社会問題



科学の目からすると、人間社会では疾患と認識されがちな現象も、性の自由さの発露であることが、この本を読んでもらえればわかると思います。(序章より)

- |                                    |                                |
|------------------------------------|--------------------------------|
| 第1章 雌雄はどのように作られるか                  | 第7章 哺乳類の性II——脳<br>感情・行動をつかさどる性 |
| 第2章 魚の性 自由に転換する性                   | 第8章 ヒトの性 典型的な男・女とは？            |
| 第3章 両生類の性 せめぎ合う性決定様式               | 第9章 昆虫の性 のとられる性                |
| 第4章 爬虫類の性 環境で決まる性                  | 第10章 植物の性 性決定の新たな世界            |
| 第5章 鳥の性 歌うたいをつかさどる性                | 第11章 多様な性決定システムの中にみられる共通性      |
| 第6章 哺乳類の性I——生殖腺<br>多様な精巣・卵巣からうまれる性 |                                |



オスになるY染色体を持つが、個体としてはメスのメダカの実験変異体



お母さんの中に妊娠中の男の子の男性細胞が、胎児の中にお母さんの女性細胞が混入することがある。



季節によって脳の性分化が際立つカナリアのオス



カメなど爬虫類は、生まれる時の温度によってオスメスが決定する

ニワトリのギナンドロモルフ(雌雄モザイク)

### 執筆者紹介

田中 実 (編著者)：名古屋大学大学院理学研究科教授  
大久保龍樹 (第2章)：東京大学大学院農学生命科学研究所准教授  
伊藤進彦 (第3章)：北里大学理学部准教授  
三浦郁夫 (第3章)：広島大学両生類研究センター准教授  
松原和純 (第4章)：関西学院大学理工学部助教  
戸張綾子 (第5章)：麻布大学獣医学部動物応用科学科講師

全井克典 (第6章)：東京大学大学院農学生命科学研究所准教授  
平松竜司 (第6章)：東京大学大学院農学生命科学研究所助教  
藤水健史 (第7章)：麻布大学獣医学部介在動物学研究室助教  
藤岡 浩 (第8章)：東京大学大学院農学生命科学研究所准教授  
深見真紀 (第9章)：国立成育医療研究センター研究所分子内分生研究部長  
赤木剛士 (第10章)：京都大学大学院農学研究科助教  
菊池 洋 (第11章)：東京大学水産実験所教授